



縄文イベント情報

* 詳細は、チラシやホームページ等でお知らせします。
* 皆様からの情報もお待ちしております!

🌿 展覧会 第1回「釧路の縄文文化」

■日時：5月28日(火)～8月10日(土) 9:30～16:30 ※日曜、休日は休み
■場所：札幌国際大学6号館1階(札幌市清田区清田4-1-4-1)
■内容：道東・釧路の縄文遺跡を写真と解説パネルで紹介しします。

入場無料



🏠 第1回展覧会記念講演会「釧路の縄文文化」
■日時：7月13日(土) 13:30～14:30(予定)
■場所：札幌国際大学
■講師：石川 朗 氏(釧路市埋蔵文化財センター)
第1回展覧会「釧路の縄文文化」開催における記念講演会。道東・釧路の縄文文化について、東釧路貝塚などを中心にお話していただきます。
※ 詳細は下記へお問い合わせください。

■問合せ：札幌国際大学縄文世界遺産研究室
011-881-2433(平日9時～16時半) URL <http://www.siu.ac.jp/jomon/>

🌿 「縄文遺跡群の構成資産紹介」「私と世界遺産」

■日時：常設展示 9:30～16:30
■場所：札幌国際大学6号館1階(札幌市清田区清田4-1-4-1)
■内容：世界遺産を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産の紹介など。
※ 日曜、祝休日、お盆、年末年始、入試日などはお休みです。

入場無料



■問合せ：札幌国際大学縄文世界遺産研究室
011-881-2433(平日9時～16時半) URL <http://www.siu.ac.jp/jomon/>

🌿 北の縄文 ー縄文探訪と縄文工房ー

■日時：7月6日(土)～9月29日(日) 9:30～16:30
■場所：北海道立埋蔵文化財センター(江別市西野幌685-1)
■内容：遺跡との出会いやものづくりを通じて道内各地の縄文文化を知ることができます。
※ 毎週月曜日のほか休館日があります。詳しくは下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

入館無料



■問合せ：北海道立埋蔵文化財センター
011-386-3231(平日9時半～16時半) URL <http://www.domaibun.or.jp/O11>

🌿 縄文夏まつり

■日時：7月25日(木)～28日(日)
■場所：札幌駅前通地下広場(チカホ)札幌駅前イベントスペース
■内容：縄文土器などの出土品展示、北の縄文パネル展、北の縄文セミナー、ワークショップなど

入場無料



■問合せ：北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室
011-204-5168 URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/index.htm>

編集後記
◎『北の縄文』春号の発行にご協力をいただいた皆様にお礼申し上げます。この5月、『平成』から『令和』に改元され、新しい時代が始まります。「今年こそ悲願達成を」果たしましょう。(T.H)
◎ 遺跡巡りが楽しい季節になりましたね！今年は御所野遺跡など東北の遺跡にも行ってみたいです(I.K)
◎ 今年も縄文が熱い！益々楽しい「縄文」を発信してゆきます。よろしくお願いします！(M.S)
◎ 入庁1年目です。これから縄文について一生懸命勉強しますのでよろしくお願いいたします！(N.Y)

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議 編集長 谷 紘道 編集委員 井上、村上、西島
TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutan@cbt.chuo-bus.co.jp



令和元年 5月発行

| | | |
|----|------------------|----------|
| 目次 | ■北の縄文コラム | ・・・P1 |
| | ■縄文雪まつり講演 | ・・・P2～P3 |
| | ■道内各地の活動状況/よもやま話 | ・・・P4 |
| | ■道外構成資産/会員メッセージ | ・・・P5 |
| | ■イベント情報 | ・・・P6 |

北の縄文コラム

今年こそ悲願達成を

観光において人をひき付ける4大要素は「自然」「気候」「食事」「文化」だと言われています。ここ北海道も「豊かで美しい自然」「過ごしやすい夏やスキーなどを楽しめる冬という恵まれた気候」「品質が高く安全な農水産物」などが多くの人々を魅了しており、昨今ではアジアを中心とする外国人観光客の方に大変喜んでいただいております。

また国内の他の地域にくらべて「歴史が浅く、文化がない」という思い込みを離れ、改めて道内の様々な地域を見てみますと、自然と共生し独自の精神性を持つ「アイヌ文化」や、日本の近代化を空知の石炭やそれを使った胆振の製鉄が支えてきたという「炭・鉄・港の物語」など、北海道にも豊かな「文化」が存在している事に気づかされます。

さらに、北海道と北東北(青森・岩手・秋田)に広がる縄文時代の遺跡群は、太古の昔、この地域に豊かな精神性や芸術性を持った人々が暮らしていたことを我々に語ってくれます。その素晴らしさや面白さは国内外から驚きを持って受け止められているところであり、現代を生きる私たちの暮らしについて考え直す一つのきっかけともなるのではないのでしょうか。昨年は惜しくも世界遺産の国内推薦を逃しましたが、この世界的にもまれにみる文化をより多くの人に知っていただくことが、北海道のさらなる魅力アップにつながります。悲願の達成に向け、今年こそは国内推薦を果たしたいと思っております。引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、ご支援のほどをなにとぞよろしくお願いいたします。

北の縄文道民会議 事務局長 檜森 聖一
(二十一世紀総合研究所 会長)



平成31年2月5日～10日、道庁赤れんがにおいて開催した「縄文雪まつり」講演の一部を抜粋して紹介します。

「住民とめざす世界遺産 - 岩手県御所野遺跡 -」

一戸町教育委員会世界遺産推進室長
高田和徳 氏

すごい寒波だったので、ほとんどのみなさまが来られないかなと思っていたのですが、こんなに沢山の方にお越し頂きありがとうございます。実は、飛行機の中で一ついいことがありました。CAの方がずっと近づいてきてこのパッチを見て、「あ、縄文の世界遺産ですね」って言ってくれて感激しました。さすが北海道だなと思いました。

今日は岩手県の御所野遺跡についてお話いたします。「円筒土器文化圏」という言葉を聞いたことがあると思いますが御所野遺跡はこの円筒土器文化圏の中で一番南にあります。こうした文化圏が6～7つくらい全国にあるのですが、南と北の文化圏の境にあることがこの遺跡の大きな特徴になっています。

| 遺跡名 | 縄文前期 | | 縄文中期 | | 縄文後期 | | 縄文晩期 | |
|-----------|--------|-------|-------|-------|-------|-----|------|--|
| | 13,000 | 5,000 | 3,000 | 2,000 | 1,000 | 200 | 0 | |
| 大平山遺跡 | ■ | | | | | | | |
| 根ノ島遺跡 | | ■ | | | | | | |
| 花巻食料庫 | | | ■ | | | | | |
| 田小野野遺跡 | | | | ■ | | | | |
| 三内丸山遺跡 | | | | | ■ | | | |
| 二ツ森遺跡 | | | | | | ■ | | |
| 大船遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 御所野遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 入江貝塚 | | | | | | | ■ | |
| 小牧野遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 伊勢堂平遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 太田遺跡群 | | | | | | | ■ | |
| キウス南遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 大森山遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 高砂貝塚 | | | | | | | ■ | |
| 藤ヶ岡石器時代遺跡 | | | | | | | ■ | |
| 黒川石器時代遺跡 | | | | | | | ■ | |

▲ 構成資産比較年表

これは縄文遺跡群の構成資産を古い順番に並べたものですが、御所野遺跡は中期の最後になります。実は、これより前の時代とこれよりも後の時代とでは社会が全然違うのです。これよりも前は気候が暖かく、人が増えたり集落も大きくなったりしましたが、御所野遺跡の時期から寒くなって、集落の作り方や社会のあり方も大きく変わりました。その変化の節目にあるのがこの遺跡になります。

それでは遺跡の説明に入っていきます。遺跡の反対側には実は駐車場があって、木の吊り橋を渡って遺跡に行くのですが、橋がカーブしていますので前が見えません。どんどんと中に入っていくと先が開けて見えるという仕掛けになっていて、あの橋を見たいからまた来たという人も結構いますので、是非皆さんも期待してお越し頂ければと。その上に復元しています。当時の配置のままにある

ということをご理解頂ければと思います。また、7万2千㎡が国史跡の範囲ですが景観も保護するために13万㎡を町費で購入しています。

これが全体の遺構配置ですが、ここに墓があって、これが石で囲った配石遺構があります。その周りに掘立柱建物の柱跡がいっぱい出てくるのですが、この建物は普通の住居ではなく配石遺構とセットだろうと考えています。青森には石で囲った墓の中に遺体を入れて骨になった段階で埋葬する「再葬」がありますが、御所野遺跡の建物もそうした使い方をしていると思っています。同じ文化圏でも異なる要素が絡み合っているんですね。



▲ 配石遺構と掘立柱建物跡

それと一番の特徴は土屋根の竪穴住居跡が見つかったことです。これは焼けた家の中に柱が焼け落ちて炭になったもので、これを図面上で色分けしていくと、どうやって燃えてどうやって崩れて埋まったかが分かります。ただ、自分たちでも土屋根の住居を復元して、そして燃やしてみたのですが、実は燃えません。何故かという、中で火を燃やすと酸素がなくなっちゃってすぐ消えるんです。だから、意図的に屋根を壊して空気を入れるとようやく燃えるんです。北海道にも焼け落ちた竪穴住居跡がたくさん出ています。アイヌ文化にも家を燃やして「送る」儀式がありますが、この遺跡でも目的を持って家を焼いていたことが分かりました。

最後に御所野遺跡に関わってきた人たちのことを紹介します。これはガイドする人たちです。ガイドだけでなく、大勢の地元の人が遺跡に関わっています。遺跡をずっと保存していくためには地元の参加がなければ無理なんです。こうして町を挙げて取り組んでいますので、皆さんと一緒に頑張って世界遺産登録を実現できればと思っています。

- 縄文遺跡群の活用と地域活動 -

札幌国際大学縄文世界遺産研究室長

越田賢一郎 氏

越田と申します、よろしくお願ひいたします。

今日は大きく二つのお話をしたいと思います。一つは世界遺産登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値、もう一つは私達がこれから世界遺産登録に向けて何ができるのだろうか、ということ です。

カックウ君、ちょっと上を見上げていい顔ですよ。今年秋に開催したパリの縄文展では、一月半の間に14,850人が見学しております。その前の東京国立博物館での縄文展には、2ヶ月半で35万人です。縄文もずいぶん人気が出てきたんだなあと思っております。

現在、世界遺産は文化遺産、自然遺産、複合遺産を合わせて1,092件ありますが、登録されるには世界遺産条約を締結しており、「顕著で普遍的な価値」が必要です。

それでは、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値はどのようなものでしょうか。私は、津軽海峡を挟んだ地域の特色を、「海」、「森」、「雪」の三つで説明しています。春に採った山菜、秋のクリやドングリを冬まで蓄えます。貝、魚や肉も干して保存食にします。「雪」で野山が覆われる時期に「森」と「海」の幸を、土器で煮て、食べるのです。これを「縄文鍋」と呼んでいます。1年間の食糧が維持され、定住生活ができるようになりました。

それと、カックウ君はズボンを履いていますね。毛皮がどうか分かりませんが、衣服を作るには、針と糸が必要になります。糸を太くすれば縄になり、さらに太く長くするとロープになります。糸で衣服



▲ 国宝「中空土偶」

をつくり、先程の御所野遺跡のように、竪穴住居づくりに縄を利用し、木を運ぶのにロープを使います。このような道具が揃って、北海道・北東北の冬を過ごせるようになるわけです。

自然をバランス良く利用することで、農耕を行わなくても、定住生活を営めるようになります。そして

次第に人口が増え、継続して集落が営まれ、周囲に貝塚、盛土、環状列石、周堤墓などが造られました。1万年にわたりこの様な文化を継続したのが、北海道・北東北の縄文文化なのです。

では、農耕社会では何が起きたかという、技術の急激な進歩によって、穀物の生産量が増え貯蔵が行われ、文明が興ります。権力や富が一部に集中して、それが国家の形成につながり、同時に格差や戦争などが生まれます。また、病気が発生すると都市に蔓延するなど、マイナス面もあったことを歴史は示しています。松本直子さんが発表した論文では、出土した骨を調べると、縄文人が骨に傷を受けた比率は0.9%と大変低く、弥生時代になると大きく増加するとのこと。平和な時代が1万年続いたことを示しています。

大事なことは、狩猟採集民に共通してみられる特徴として、狩猟で捕った獲物はみんなで分かち合う、血縁を越えた相互扶助や協力関係がみられることです。緩やかな結びつきのある社会形成、これが一つの縄文社会のモデルと言えるのではないのでしょうか。

ここで、札幌国際大学の縄文世界遺産研究室がお手伝いさせていただいている事業を紹介します。だて噴火湾縄文まつりはもう21回、とうや湖縄文ま



▲ だて噴火湾縄文まつり

つりも10回続いています。これは余市町の縄文野焼き、こちらは深川町の縄文すていで。独自の事業としては、講演会や縄文芸術祭などを開催し、今金町と連携して地域活性化に取り組んでいます。

これから世界遺産に登録されると、その価値を広め、伝承していかなければなりません。それには地域の活動が大事です。シーニックバイウェイやアドベンチャー・トラベルなどの観光を通して、遺跡に観光客を呼び込むのもその一つです。それだけでなく、縄文文化に関心を持って、地域とつながりたいという方々も増えるでしょう。このような人々を「縄文関係人口」と呼びたいと思います。

地域の人々が連携して、「縄文関係人口」を増やしていこうではありませんか。